

皮膚科のトリビア

249

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会から

令和6年11月16日

HyperSCOTとは

HyperSCOT(Smart Cyber Operation Theater)は、東京女子医科大学を中心に開発が進められているスマート治療室の最終目標モデル。2019年から臨床研究が開始され、技術の進展に伴い継続的に改良され発展してきた。最新情報としては、以下の動向があげられる。①モバイルSCOTの開発：2024年10月には、災害時や過疎地での医療提供を目的としたモバイルSCOTが展示された。これは、NTTドコモなどと共同で開発されている移動可能なスマート治療室である。②技術の標準化と普及：OPeLiNKという情報統合プラットフォームを使用して、国内外40以上の医療機器との接続が可能になっている。この技術のIEC規格国際標準化に向けた国内委員会が発足しており、国際的な普及が進められている。③遠隔医療・教育への応用：SCOTで記録された手術データは、術後の振り返りや若手医師のトレーニングに活用されている。関係者の同意を得た手術動画は、世界中の登録会員向けにデジタル教材として配信されており、遠隔での医療教育に貢献している。④AIとの連携：将来的には、蓄積された臨床情報から予後予測や術中の危険予測アドバイスを行う「臨床情報解析システム(clinical information analyzer : C.I.A.)」などのAI技術を導入し、「AI Surgery」の実現を目指している。

一言コメント

「外科領域の手術は専門化、高度化していて、担い手も減少していると聞く。今後ますます必要になり、大いに活躍していく領域だろうと感じた。」

●糖尿病多職種連携研修会から

令和6年11月19日

3大栄養素と血糖値の変動

食事による血糖値の変動は3大栄養素それぞれで時間的な経過と変化の割合が異なっている。炭水化物は摂食後30～60分でピークに達し、2時間後にはほぼ影響はなくなる。蛋白質は摂食後3時間がピークで、炭水化物と比較するとその影響は5割程度、5～6時間で影響がなくなる。脂質はなだらかに血糖を上昇させるが、その影響は炭水化物の1割程度で、12時間ほどで影響がなくなる。

一言コメント

「栄養士による講演。血糖管理に必要な基礎知識で、なるほどと思った。^{なかしょく}「中食」という言葉も初めて聞いた。外で食事をする「外食」と自宅で食事する「内食」の中間地点にあたる食事のことで、コンビニ弁当や外食店のデリバリーなど、家庭以外で調理された食品を持ち帰り、家で食べる食事のスタイルとのこと。」

●某製薬会社主催Web講演会から

令和6年11月28日

ブタクサとセイトカアワダチソウの鑑別

ブタクサとセイトカアワダチソウは、ともに秋に咲く黄色いキク科の外来植物である。両者は混同されがちだが、ブタクサは縁がギザギザでヨモギのような葉、セイトカアワダチソウは細長い笹の葉のような直線的な葉をもち、セイトカアワダチソウのほうが背が高く、花の黄色味が濃い。ブタクサは風媒花のため花粉症の原因となるが、セイトカアワダチソウは虫媒花のため、花粉症の原因になることは少ない。

一言コメント

「風媒花、虫媒花の違いが花粉症の原因になる、ならないに関わっていることを知った。セイトカアワダチソウをブタクサと間違っていることが多いことも参考になった。」

●神奈川県皮膚科医会第173回例会から

令和6年12月1日

TLA麻酔とは

TLA麻酔 (tumescant local anesthesia) とは、低濃度の麻酔液を大量に注入する局所麻酔法で、主に下肢静脈瘤のレーザー日帰り手術で使われている。焼灼時の痛みや熱傷を防ぎ、術後の痛みをおおむね18時間抑える効果がある。施術後に皮膚が膨らむ (tumescant) 様子から名づけられ、キシロカイン0.1%、40~300 mLが目安で、血管周囲に注入する。ハンズフリーで施術が行えるTLAポンプが販売され使用されるが、請求は局所麻酔と同様である。

一言コメント

「血管外科領域では常識と思われるが、TLA麻酔を知っている皮膚科医は少ないのではないかと思います。皮膚科の手術にも応用できそうだが、経験のある先生はいるだろうか。」

●某製薬会社主催Web講演会から

令和6年12月3日

亜鉛欠乏症のリアルワールド

人間ドック受診者のデータでは、亜鉛の血中濃度が60 $\mu\text{g/dL}$ 未満を亜鉛欠乏症、60~80 $\mu\text{g/dL}$ 未満を潜在性亜鉛欠乏、80 $\mu\text{g/dL}$ を正常とすると、男性の0.4%、女性の0.6%が亜鉛欠乏症、男性の46.0%、女性の38.4%が潜在性亜鉛欠乏だった。レセプトベースからの国内13,100人の集計からは、60歳代の77.3%、70歳代の82.0%、80歳以上の89.0%が80 $\mu\text{g/dL}$ 未満であった。男性は50歳以上で血中濃度が低くなり、加齢とともに低下するが、女性では年齢と血中濃度に有意な相関は認めなかった。他疾患の治療薬では、利尿薬、全身用抗菌薬、抗貧血薬、甲状腺ホルモン製剤の順に関連を強く認めた。

一言コメント

「データのばらつきが大きい。おそらく採血と測定手技によると思われるが、ある程度は参考になった。ノベルジン®(酢酸亜鉛水和物)に加え、ジントス®(ヒスチジン亜鉛水和物)が最近発売になったらしい。チェックしておこう。」

●日本皮膚科学会第914回東京地方会から

令和6年12月14日

卵巣腫瘍の摘出後に改善した女性型脱毛症

70歳代の女性。5年前から脱毛が生じ、進行はないものの現状維持が続いていた。女性の男性型脱毛と考え、血中のテストステロンを測定したところ高値であることが判明。腹部CTで卵巣の腫瘍を確認、摘出術を行った。病理組織学的に卵巣ステロイド細胞腫瘍 not otherwise specified (NOS) との診断。術後3カ月で脱毛は徐々に改善した。卵巣腫瘍が産生したテストステロンによる男性化徴候と考えられた。

一言コメント

「テストステロン高値だと多毛になるような気がする。高テストステロン血症が閉経前後で毛に対する反応の違いがあるとしたら、興味深いと思った。」